

令和2年6月21日(日)

## 「久しぶりの下見同行山歩き」 報告

一王山支部 中村 剛二

緊急事態宣言が解かれ、出張先の岡山から週末の帰省が許されるようになって2回目の我が家である。住吉川から望む六甲の山並みを眺めていると、コロナなんかどこの国の話?・・・と不思議に思うほど緑の鮮やかさとこの辺りの空気が実にうまい!!

昨日お誘いを受け、再開予定の例会の下見山行に参加させて頂くことになった。とにかく久しぶりの山歩きである。脚力に若干不安があるも行きたい気持ちが勝っていた!!



ヤマアジサイの宝庫、炭ヶ谷を進む吾輩

神鉄谷上駅8時30分集合。本番通りの集合である。メンバーは吉野会長と木村支部長のベテランお二人と私を含めた超ヤング?NSメンバー6名。本番時の受付の仕方やコロナ対策の為にやるべきことの説明などを受け、出発する。梅雨の合間の好天気ですっきり深呼吸!・・・とはいかず、マスク着用?、2メートル間隔確保の歩行、大声でしゃべらない等々、登山行動ガイドラインの指導にそった山歩きが当面のコロナ感染防御山行だそうだ。(あ~苦しいやろな~)・・・?

登山道の起点となる炭ヶ谷の入口は谷上駅から次の花山駅の間ぐらいで神鉄線と阪神高速7号線の間に建っている住宅街のはずれで少し判りづらいところだった。登山道へ入ると日差しは木々で適度に遮られ、湿度が低く大変涼しく感じられた。石楠花山まではこ

の涼しさが続くそうで気分が良い。しばらく歩くと狭い沢を渡ったところからヤマアジサイが見られるようになり、涼感と共に行事のタイトル「水無月に潤む裏六甲・・・」そのものの感である。この辺りはヤマアジサイの宝庫であり、昔々は谷上の村人が炭焼きで生計を立てていたそうで炭窯跡が点在していた。



峠の分岐点でコンパスによる位置確認の講義

山道は沢の右岸側を歩くように付けられていたが登るにつれ狭まり、途中からは沢歩きとなった。しかし長くはなく、すぐに峠へ出た。ここで小休止となり、水分と果物や行動食を補給後、磁北線が引かれた地図の資料に基づいての勉強タイムとなった。現在地の確認、目的としている場所の方向や距離など、地図読みは山歩きの基本・・・と自然に思えるようになってきた!・・・ような?気がする。予定コースになっている「烏帽子岩」に向き出発する。曲がりくねった道を進んでいくと烏帽子岩の上部に出た。「下部へ廻って見上げたら“烏帽子”スタイルの岩に見えるんや!」との会長説明にみんなで下部へ廻って眺めてみたら、なんとなくそれらしき?に見えた。



烏帽子岩から下を覗く参加メンバー

ここから少し戻って、652Mの石楠花山三角点を目指す。笹で覆われ足元が見にくい小道を辿ったが、初めて訪れる登山者には分かりづらい場所に三角点はあった。二等三角点とのことだが肝心の「二等」の表示文字が消えていた。



石楠花山の二等三角点にご対面！！

こゝから石楠花山展望台までは目と鼻の先であった。展望台下には3名の先客がいたが食事中で、我々は2階のテラスで休憩。テラスからは、方位線が引かれた資料を見ながら、眺めることの出来る山々の展望を楽しんだ。

「折角やから天狗岩へも行っとこ！」と会長の声でお立ちとなった。天狗岩への入口も表示がないため一般ハイカーでは分かりづらいだろうね！・・・倒木や笹に隠れて見辛い急坂もあり、不安のあった脚力不足で2回ほど滑りかけたが大事には至らなかった。・・・



淡路島から丹生山系まで望める眺望抜群の天狗岩

天狗岩からは西方面の展望が抜群で、菊水、高取、旗振、のむこうに架け橋を跨いで淡路島、播磨灘まで望めた。又右手側は丹生山系

がすべて見渡せ、ゆっくりしたい場所である。

一旦展望台まで戻り、下山にかかった。黄蓮谷入口までは階段状の下りで、ドライブウェイを跨いだ所がそうであった。



仲良く並んで咲いていたササユリ

途中、ササユリが見事な花を付け咲いていた。黄蓮谷道は谷筋かと思ったら、明るい尾根筋であった。昔は谷筋に沿って歩くようになっていたそうだが、谷筋の崩壊や山肌の整地・植林などの為に尾根筋道となったようだ。



黄蓮谷入口へはドライブウェイを跨ぐ

尾根筋の最後の手前から急降下で降ったら、谷を跨ぐ丸太の橋が付いていた。しかし、橋が古く渡る気がしない。そこらにある伐採木を間々に挟み込みながら、何とか渡れるようにして無事通過！・・・(考えたら谷を跨いだ方が安全だった?)・・・だろうね。

徳川道から又ヶ谷へ入って、登りなおした石段登りは、エ〜かげんここまでシンドかったのに、足が痙攣起こしそうな地獄坂でした。

(本番はここを避けたコースでお願いします！)

植物園や下界で飲んだ打ち上げビールは、昨日にも増しての美酒でありました！(完)